

- (5) グローバル社会で活躍するうえで必須となる基礎的な英語能力を有している学生。
- (6) 公募推薦入試、センター試験利用入試、全学統一試験、一般入試において英語能力を重視します。特に、センター試験利用入試と一般入試では、英語の得点配分を高くする傾斜配点を行います。また PASCAL 入試、公募推薦入試では、各種英語資格試験において一定のスコア基準を満たした者に対して優遇する措置を取ります。
- (7) 現実の経済社会問題に関心を持ち、自ら考え行動することによって問題解決に主体的に取り組むと同時に、多様な人々と協働して学ぶ意欲のある学生。
- (8) 公募推薦入試では、書類審査と面接試験を実施し、高等学校等までの取り組みにおける主体性、学習意欲を評価します。また PASCAL 入試では、アクティブ・ラーニングの手法を用いたグループ・ディスカッションを通して、個々人の主体性、多様性、協働性、表現力を評価します。

6. 卒業要件

経済学部経済学科の卒業要件は以下の通りです。

●以下の表の通りの単位を修得し、かつ**通算 GPA が2以上**であること。

科目区分	科目特性			卒業に必要な単位数
共通科目 (54～57頁)	①基礎科目	初年次セミナー	必修科目	2単位
		学術文章作法	選択必修科目	2単位
	②大学科目		選択必修科目	4単位
	④世界市民教育科目		選択必修科目	4単位
⑧キャリア系教育科目		選択必修科目	2単位	
外国語科目	第1外国語	※1	選択必修科目	6単位
	第2外国語	※2	選択必修科目	4単位
経済学科 専門科目 (67～69頁)	選択必修科目		※3	28単位
	選択科目			38単位
	選択した科目群(クラスター) [▲印]から合計18単位以上を修得すること。			
自由選択 ※4	『共通科目』『経済学科専門科目』『他学科専門科目』から自由に選択して修得した単位			34単位以上
合 計				124単位以上

左記の単位数を超えて修得した単位は「自由選択」の単位として算入され

- ※1 第1外国語は、原則として「英語」とし、共通科目の「③言語科目(英語)」(54頁)又は学部学科英語科目(69頁)から6単位修得してください。
経済学科では、卒業に必要な英語6単位は、以下の学部英語科目を履修することによって満たすことができます。

Non-IP 生	Economics English Communication I, II, III
IP 生、Pre-IP 生	Academic Foundations for Economic Majors I, II; Global Economy Laboratory; Economics Laboratory A, B

また、IP、Pre-IPを第1 Semesterのみ履修した学生は、Economics English Communicationを履修し、残りの英語単位を修得してください。

- ※2 第2外国語は、共通科目の「③言語科目」(54～55頁)から、第1外国語として選択した言語以外の1つの言語(ただし言語演習を除く)で4単位を修得してください。
- ※3 専門選択必修科目で卒業に必要な単位数(28単位)を超えて修得した場合には専門選択科目として算入されます。
- ※4 自由選択とは『共通科目』『経済学科専門科目』『他学科専門科目』のどの科目でも自由に選択して単位を修得することができます。

ただし、『共通科目』のうち卒業基準単位数が定められている科目群の科目と『経済学科専門科目』の単位は、各々の卒業に必要な単位数を超えて修得した場合に自由選択の単位となります。例えば、専門科目の選択科目を40単位修得した場合に、2単位が自由選択の単位として計算されます(自由選択を34単位修得済の場合は、卒業基準単位数を超えた単位として計算されます)。

7. 履修制限・成績優秀者・早期卒業に関する条件

■経済学部の基準は以下の通りです。

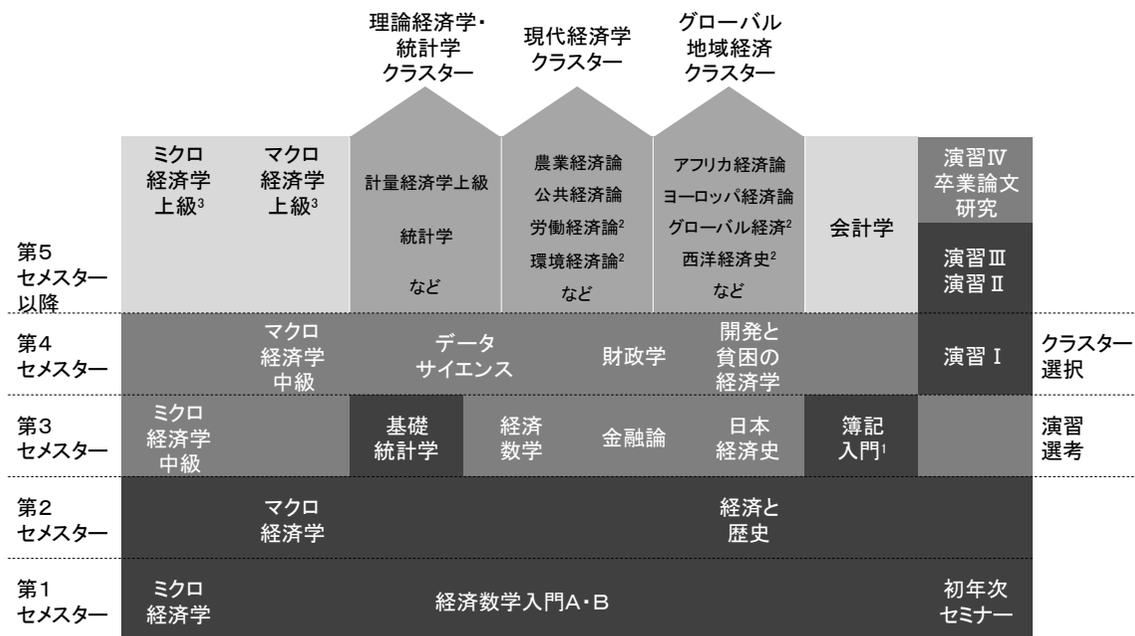
履修上限 単位数 ※学期毎の 上限単位数	履修制限 除外科目	成績優秀者になるための 基準		成績優秀者の 履修制限緩和		早期卒業するための基準		
		学期毎の修得 下限単位数	直前セメスタ ーの GPA 数値	追 加 単位数	上級年 次履修	卒業判定時 通算 GPA 数値基準	在学4セメスター終了時点 の条件	
							通算 GPA 数値基準	最低修得 単位数
20 単位	特設課程科目	16 単位	3.50	4 単位	可	3.70	3.70	84

早期卒業するためには、4セメスター終了時点で、基準の通算 GPA 数値と修得単位数を満たし、早期卒業対象者に選ばれる必要があります。そして、卒業判定時（在学6セメ又は7セメ終了時）に上記の通算 GPA 基準を満たし、かつ、卒業基準単位数を修得する必要があります。

なお、早期卒業対象者は、毎履修登録時に卒業希望セメスターを Web より登録しなければなりません。

8. 4年間の学び（経済学科専門科目）

経済学部専門科目の4年間の学び



履修アドバイス

「選択必修科目」は、経済学部での学びの基礎となる大切な科目です。しっかり学びましょう。

「ミクロ経済学中級」「マクロ経済学中級」および各クラスターの導入科目は、経済学部の基幹科目です。履修を強く勧めます。

第5セメスター以降は、選択したクラスターの科目を中心に履修しますが、他のクラスターの科目を選択することも可能です。

- 経済学部専門科目の4年間の学びをイメージするための図です。共通科目（初年次セミナー以外）は含まれていません。
- IP (International Program)、学部英語科目の履修については、「経済学部での英語教育」(63～64頁)を参照してください。
- 共通科目、IP科目を含めた、具体的な履修科目については、以下に示す履修モデルを参照してください。
- この図には含まれていない専門科目が数多くあります。その他の科目については、専門科目表(67～69頁)で確認してください。
- SUCCEED科目はこの図に含まれていません。専門科目表(67～69頁)で確認してください。

注1 第1セメスターにIPを履修しない学生は、「簿記入門」を1年次に履修してください。

注2 「労働経済論」「環境経済論」「グローバル経済Ⅰ・Ⅱ」「西洋経済史」は第3・4セメスターから履修可能です

注3 「ミクロ経済学上級」「マクロ経済学上級」は、理論経済学・統計学クラスターに含まれます

9. 履修モデル（1・2年次）

履修の仕方は、IP生、Pre-IP生と一般学生で異なります。各セメスター20単位の履修制限内での標準的な履修モデルは以下の通りです。各人の興味に応じて、これ以外の科目を履修することも可能です。

また、IP科目は、レベルによって異なるので、以下のモデルに示した以外の科目の履修が求められることがあります（「10. 学部英語科目とIP, SUCCEED」参照）。

■ 1年次

必修科目（「初年次セミナー」「マイクロ経済学」「マクロ経済学」「経済と歴史」；一般学生はさらに「簿記入門」）、IP科目若しくは学部英語科目は必ず履修してください。

その他、言語科目（英語以外）、学術文章作法、キャリア教育科目の履修を強く推奨します。

○囲み数字は単位数を表します

第1セメスター	IP生、Pre-IP生	Non-IP生
専門選択必修科目	・マイクロ経済学④ ・経済数学入門④	・マイクロ経済学④ ・経済数学入門④ ・簿記入門②
専門選択科目	・Introduction to Economic Reasoning④	
学部学科英語科目	・Academic Foundations for Economic Majors I②	・Economics English Communication I②
共通科目	・初年次セミナー② ・『言語科目（英語以外）』から1科目② ・『⑧キャリア教育系科目』から1科目②	・初年次セミナー② ・『言語科目（英語以外）』から1科目② ・『⑧キャリア教育系科目』から1科目② ・『②大学科目』から1科目②
第2セメスター	IP生、Pre-IP生	Non-IP生
専門選択必修科目	・マクロ経済学④ ・経済と歴史④	・マクロ経済学④ ・経済と歴史④
専門選択科目	・Global Economy Lecture②	・社会貢献と経済学②
学部学科英語科目	・Global Economy Laboratory② ・Academic Foundations II②	・Economics English Communication II②
共通科目	・『言語科目（英語以外）』から1科目② ・『⑧キャリア教育系科目』から1科目② ・学術文章作法I②	・『言語科目（英語以外）』から1科目② ・『⑧キャリア教育系科目』から1科目② ・学術文章作法I②
共通科目など		・自分の興味のある科目②

■ 2年次

必修科目（「基礎統計学」「演習I」、IP生はさらに「簿記入門」）、IP科目若しくは学部英語科目は、必ず履修してください。また、科目群（クラスター）選択を考えて、その導入科目を履修してください。特に「マイクロ経済学中級」「マクロ経済学中級」の履修を強く推奨します。1年次にIP、Pre-IPで共通科目を十分に履修していない学生は、2つ目の科目群（クラスター）導入科目の代わりに、共通科目を履修してください。

○囲み数字は単位数を表します

第3セメスター	IP生	Non-IP生
専門選択必修科目	・基礎統計学④ ・簿記入門②	・基礎統計学④
専門選択科目	・マイクロ経済学中級④ ・科目群（クラスター）導入科目を1科目④ ・Economics Lecture A④	・マイクロ経済学中級④ ・科目群（クラスター）導入科目を2科目⑧
学部学科英語科目	・Economics Laboratory A②	・Economics English Communication III②
共通科目など		・自分の興味のある科目②

第4 Semester	IP 生	Non-IP 生
専門選択必修科目	・ 演習 I ②	・ 演習 I ②
専門選択科目	・ マクロ経済学中級 ④ ・ 科目群(クラスター)導入科目を1科目④ ・ Economics Lecture B ④	・ マクロ経済学中級 ④ ・ 科目群(クラスター)導入科目を2科目⑧
IP・英語科目	・ Economics Laboratory B ②	
共通科目	・ 大学科目②	
共通科目など	・ 自分の興味のある科目 ②	・ 自分の興味のある科目 ⑥

■ 1 年次秋学期の「ミクロ経済学」、2 年次春学期の「マクロ経済学」について

1 年次秋学期に開講される「ミクロ経済学」、及び2 年次春学期に開講される「マクロ経済学」は、E 評価となった学生を対象により基礎的な学修を丁寧に行うため、原則として、成績は、B を上限とした評価になります。

1 年次春学期の「ミクロ経済学」、1 年次秋学期の「マクロ経済学」でE を取った学生は必ず履修してください。履修しない場合は、アカデミックアドバイザー（初年次セミナー担当教員）の許可を得なければなりません。

1 0. 学部英語科目と IP, SUCCEED 科目

各学生の希望及び英語のレベルに応じて、以下の英語教育の科目を設けています。

なお、副専攻「English Medium Program (EMP)」の登録をする場合、IP 科目（学部学科英語科目を除く）と SUCCEED 科目は副専攻科目にも算入されます。

(1) International Program (IP)

英語で専門科目の基礎を学ぶと同時に学術的な英語能力とディスカッション能力を養うプログラムです。IP では、各 Semester に6 単位の科目を履修し、毎週、授業・授業外を合わせて計約 20 時間以上の学習時間を必要とします。各授業は、次のページの図に示したように、英語力 (TOEFL-ITP テストのスコア) に応じてクラス分けが行われます。IP の履修を続けるには、Semester ごとに決められた英語力に到達し、さらに、各 Semester で 2.70 以上 (第1 Semester のみ 2.30 以上) の GPA を取らなくてはなりません。

(2) Pre-IP

IP の履修を目指す1 年生のためのプログラムです。第1 Semester に6 単位の科目を履修し、学術的な英語力の向上を目指します。

(3) 一般学生

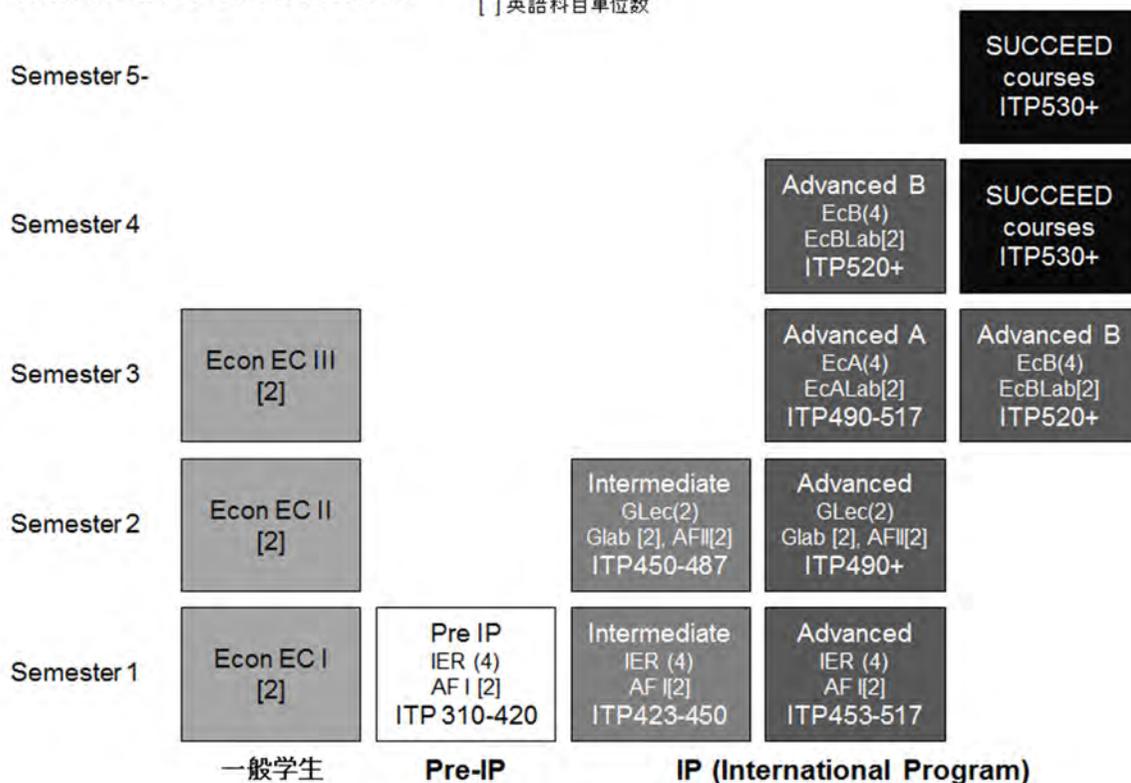
各 Semester に Economics English Communication (2 単位) を履修し、総合的な英語力の向上を目指します。

(4) SUCCEED (Soka University Courses for Comprehensive Economics Education) 科目

留学生とともに英語で経済学を学ぶ科目です。日本人学生も以下の①、②のいずれかの条件を満たせば履修できます。

- ① 以下の3つの条件をすべて満たす
 - a) Global Economy Laboratory, Economics Laboratory A, Economics Laboratory B の3科目のうち2科目以上の単位修得
 - b) TOEFL-ITP スコア 530 以上
 - c) 通算 GPA 2.70 以上
- ② TOEFL-iBT 79 点以上

原則として、1 クラスあたりの定員を留学生含めて 20 名とし、これを超過する履修希望者がいた場合は、経済学部生の履修を優先とします。



※入学時に TOEFL-ITP が 520 点以上の場合、Semester 1 に Advanced A から学修を始める場合があります

1 1. 履修のための前提 (prerequisite)

2 年次以降に開講される科目の多くは、事前に特定の科目を履修しておくことが求められます。これらの条件は、各科目のシラバスに明記されているので、履修の前に必ず確認するようにしてください。特に、「ミクロ経済学中級」「マクロ経済学中級」は、その履修が、多くの科目で前提とされるので、2 年次のうちに履修することが強く推奨されます。

1 2. 科目群 (クラスター)

2 年秋学期 (第 4 セメスター) の履修登録で、科目群 (クラスター) を選択して登録します。選択した科目群 (クラスター) が指定する ▲印の科目群の中から 18 単位を修得しなければなりません。

■経済理論・統計学

複雑な社会現象を経済学的視点から分析し、考える力を修得します。経済理論を基礎に論理的な思考力を養い、コンピュータを使って経済動向を数理的・統計的に分析する力を身につけます。

■現代経済

経済理論をもとに、金融やファイナンスの知識を基礎から学び、かつ、財政、環境、雇用等の諸問題について多角的な観点から幅広く学びます。さらに、諸問題解決のための政策立案の方向や将来のビジョンを模索する科目群 (クラスター) です。

■グローバル地域経済

生活や社会の発展と経済活動との関連を国内外の歴史や文化を通じて考えます。世界各地における経済事情を把握するとともに、世界経済における貧困や開発の問題を考察します。グローバルな観点で経済活動を理解し、広い視野と分析力を養います。

■SUCCEED (Soka University Courses for Comprehensive Economics Education)

英語による講義のみで構成される科目群（クラスター）です。日本人学生も以下の①、②のいずれかの条件を満たせば、この科目群（クラスター）の科目を履修できます。

- ① 以下の3つの条件をすべて満たす
 - a) Global Economy Laboratory, Economics Laboratory A, Economics Laboratory B の3科目のうち2科目以上の単位修得
 - b) TOEFL-ITP スコア 530 以上
 - c) 通算 GPA2.70 以上
- ② TOEFL-iBT 79 点以上

■選択した科目群（クラスター）の変更

第4セメスターで選択した科目群（クラスター）を変更する場合は、第5セメスター以降の履修登録時に変更することが可能です。ただし、科目群（クラスター）を変更した場合、変更先の科目群（クラスター）が指定する科目群から18単位を修得しなければなりません。したがって、安易に科目群（クラスター）の変更を行うと卒業に影響がありますので、科目群（クラスター）を選択する際は将来の学修の方向性などよく考えて登録するようにしてください。

1 3. 演習（ゼミナール）

(1) 演習の開講時期

専門演習は、2年秋学期以降に、少人数制（原規定員12名）で開講されます。「演習Ⅰ」（2年秋学期）「演習Ⅱ」（3年春学期）「演習Ⅲ」（3年秋学期）は必修です。「演習Ⅳ」は、4年秋学期に選択科目として開講されます。原則として、1人の教員の演習に、「演習Ⅰ」から「演習Ⅳ」まで継続して所属します。

(2) 演習ガイダンス及び申し込み時期

2年春学期にガイダンス及び申し込みがあり、選考の上、所属する演習が決定されます。なお、教員が選考資料の1つとして1年次の成績を使用します。

※演習の選択は、3つの科目群（クラスター）から選択した専門分野と必ずしも関連している必要はありません。

1 4. 専門科目の認定

(1) 各種検定試験による単位認定

対象となるのは、以下の検定試験の成績・資格です：

- ・経済学検定試験 ERE（ミクロ・マクロ）の成績
- ・統計検定（日本統計学会公式認定）2級以上に合格

いずれも、在籍期間中に受検して得た成績、あるいは取得した資格が対象になります。これらの成績・資格を以下の基準に従って、「経済特論Ⅰ～Ⅵ」（各2単位）の中から単位修得状況により認定します。単位認定を希望する学生は、所定の申請書（Web上にて発行）と成績証明書原本（教務課で写しを取った後に本人に返却）を教務課に提出してください。経済学部以外の学生についても、他学部専門科目「経済特論」として認定されます。

(2) 留学先で取得した科目の単位

交換留学先の大学、若しくは私費留学で経済学部教授会が適当と認めた大学において修得してきた経済学専門科目の単位は、経済学部教授会の議を経て、創価大学経済学部のカリキュラムや授業時間数に従って、創価大学経済学部の単位として認定されます。

経済学専門科目の単位の認定を希望する学生（他学部生を含む）は、全学共通の海外留学単位認定願（専門科目）・講義内容（教務課窓口で配布）・留学先で発行した成績証明書原本【成績基準を含む】に加え、留学先での講義シラバスを教務課に提出してください。

■認定の対象となる資格・成績

主催団体	試験名	取得資格	認定成績	認定単位	備考
日本経済学教育協会	経済学検定試験 (ミクロ・マクロ)	S	A+	2単位	ERE ミクロ・マクロでの単位認定は一度のみです。一度 ERE ミクロ・マクロで単位認定を受けた後、別の成績で新たに単位を申請することはできません。
		A+	A		
		A	A-		
		B+	B+		
		B	C		
		C	D		
日本統計学会	統計検定	2級	R	2単位	統計検定による単位認定は最大で4単位です。一度2級で単位認定を受けた後、準1級で単位申請をした場合は2単位認定されます。
		準1級以上	R	4単位	

注1) 在籍期間中に受験した資格・成績が対象です。

注2) ERE (ミクロ・マクロ)、統計検定双方の資格・成績を保持している場合、最大で6単位の単位認定を受けることができます。

■専門科目表の見方 (経済学科専門科目)

次のページから掲載されている経済学科専門科目表では、以下の事項が掲載されています。

科目ナンバリング	科目名	授業時間	単位	履修年次	Cluster				他学科履修	備考	ディプロマ・ポリシーに記載の学修成果該当項目						
					理論	現代	グ地	SUC			1	2	3	4	5	6	7
					①	②	③	④			⑤	⑥	⑦	⑧	⑨		

①科目ナンバリング	授業科目を区分するための記号と番号。アルファベットは科目の特性、数字はレベルを表します。詳しくは「第三章 6. 科目ナンバリング」(19頁)を参照してください。
②科目名	時間割表などに掲載される科目名称です。
③授業時間	その科目を修得するために必要な授業時間数を示しています。単位は「時間」です。なお、本学の授業は1時間を45分として開講しています。授業時間が30時間の科目は週1回、60時間の科目は週2回開講されています。
④単位	その科目を合格することで修得できる単位数です
⑤履修年次	その科目を何学年次から履修することができるかを表します。
⑥Cluster	どの科目が科目群(クラスター)の指定する科目かを表します。選択した科目群(クラスター)列に「▲」が付されている科目を18単位以上修得する必要があります。なお、科目群(クラスター)名は以下の略です。 理論：経済理論・統計学／現代：現代経済／グ地：グローバル地域経済／SUC：SUCCEED
⑦他学科履修	経済学科生以外の学生の履修の可否を表します。この欄に「×」が付されている科目は、経済学科生以外には履修できません。
⑧備考	その科目を履修する際の注意事項や条件、制限事項などが記載されています。
⑨ディプロマ・ポリシーに記載の学修成果該当項目	その科目がディプロマ・ポリシーで示されたどの学修成果項目に該当するかを表します。◎は最も該当、○は該当することを意味します。各番号は以下の学修成果項目を表します。 1. 経済学を用いて、社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析することができる。 2. 数量的・統計的データを正確に理解することができる。 3. 日本・世界の経済・社会に関する知識を持ち、活用することができる。 4. 経済問題について、日本語や英語を用いて、他者の考えを正確に理解し、自らの考えを明確に伝えることができる。 5. 世界の多様性、及び経済問題・社会問題の多面性を理解し、適切な議論を行うことができる。 6. 経済学の学修を通じて、自らの行動を律し、他者と協力しながら、目標を達成できる。 7. 社会の発展、人びとの幸福への方途を、経済学を用いて提案することができる。